

昨年度のだいじ研修ダイジェスト

昨年度は、計22回の研修やイベントを企画・運営し、延べ600名を超える皆様にご参加いただきました。障がい者雇用促進を軸に、理解の啓発や支援者のスキルアップ、就労中の当事者のための研修など様々な目的で実施いたしました。

雇用促進・就労定着プロジェクト

当センターで開催していた企業研修に、ご参加・ご協力していただいていた障がい者雇用に関心な企業15社が結集し、プロジェクトを立ち上げました。

このプロジェクトの任務は、

- ①地域の障がい者雇用の促進 ②就労後の定着支援体制の充実 ③障がい者雇用に関するノウハウの共有の3点です。

昨年度は立ち上げ年ということもあり、地域の皆さんに活動を知ってもらうことに力を入れてまいりました。「企業から福祉へ」

「企業から求職者へ」をテーマに行った活動の中から「就労系障がい福祉サービス事業所見学会」「仕事の魅力発見フェス」のご紹介をいたします。

年11回の活動を実施しました！



就労系障がい福祉サービス事業所見学会 令和元年7月～

自社で雇用している方の就労定着の学びを深め、新規雇用者獲得のため、9か所の事業所見学を行いました。施設内の構造化やマニュアルの作成、仕事の組み立ての工夫など、福祉が当たり前に行っている工夫が、企業の方にとってはとても新鮮だったようです。仕事の見学の後には、利用者さんとの座談会を行い、皆さんの今までの経験や就職に対する思いを聞くことが出来ました。



話し合いでは、自分の悩みや企業の方への質問に答えてもらうコーナーもあり、利用者の皆さんは企業の方からエールをもらう時間にもなりました。今回の見学を通し、「企業の方が来る」ということが、利用者さんに新鮮さと刺激を吹き込むことになったようです。

計3回9事業所へ訪問しました



定着支援研修・余暇支援

働く当事者対象
定期開催の研修です

当センターでは、企業で働く障がいをお持ちの方を対象に、必要な知識やスキルアップの材料となることをテーマに取り上げ、参加者自身の成長や働くエネルギーに繋げていくことを目的とした『在職者向け定着支援研修会』を、年数回実施しております。約6年前から始まったこの研修では、参加者が年々増加し、働く業種や企業文化、経験年数等もバラバラの中、知識を学ぶだけでなく、意見交換の場も交えながら共感し合い、刺激を受けながら仲間とのつながりを持てる場にもなっていると感じます。昨年度は「社会人としての基礎知識について」や「社内でのコミュニケーションのポイント」、「ストレスとの上手な向き合い方」等の内容について、外部講師や企業の雇用担当者にもご協力を頂きながら実施して参りました。参加者層が幅広くなる中でニーズも多様化しておりますが、経験年数や各々の目標に合わせた効果的な研修会となるよう、今後も企画・運営をしていきたいと考えております。



また研修の場だけでなく、リフレッシュや余暇を楽しむことを目的とした余暇活動についても別途企画をしており、昨年度は女性の方を対象とした「こころとからだの健康」について考える時間を設けました。

「働き続けること」と「働く土台となる生活」との両方がバランス良く保てるよう、こちらも必要に応じて企画が出来ればと考えております。



仕事の魅力発見フェス 令和2年1月16日14:00～(とかちプラザ大集会室)



障がいのある求職者に向けて、仕事の体験会を開催しました。ステージイベントでは働く6社の先輩からの仕事の内容や、やりがいについての話を聞き、体験ブースで7つの仕事体験ができるという2本立てのイベントでした。当日は160名を超える方が集まり、熱気あるイベントになりました。仕事の体験では延べ200名以上が、実際に仕事で使う道具を用いて体験することができました。「見たことがある」「聞いたことがある」とは違った生の体験で、仕事に対するイメージが持てたとの参加者からの声が聞かれました。同伴された事業所の方からは、「フェスに参加するために、服装やマナーなど事前準備をしてきた」と就労支援プログラムの一環で利用していただいた嬉しい声も聞かれました。また、当日は障がい理解を深めるために、雇用を考えている企業の方もお越しくださいました。障がい者雇用の経験豊富なメンバーが、雇用に関するノウハウや心構えをお伝えする機会を設けました。企業同士がつながりを持ち、お互いの悩みやノウハウを伝えあうこともプロジェクトの大きな役割の一つです。

就職を目指す求職者が参加
十勝初の体験イベントです！



企業相談の様子

就労支援担当者スキル向上研修

令和元年12月12日(ソネビル6階会議室)

地域の就労支援の中心となる人材育成
ジョブコーチのエッセンスで支援ノウハウを身に付ける

就労支援担当者スキル向上研修は、十勝の就労支援を牽引しう人材の育成を目指すことを目的に、12月12日に実施されました。企業、福祉、教育の分野から30名の方にご参加いただき、熱のこもった研修となりました。研修には定員の30名を超えるお申し込みをいただき、参加をお断りした方もいたことを、この場を借りてお詫びいたします。午前の部は「伝える技術・企業との交渉」をテーマに、企業訪問時の聞き取りから交渉まで、押さえておきたいポイントを講義で確認した後、ロールプレイを行いました。ロールプレイでは、参加者でもある企業担当者を相手に、実際の求人票を確認しながら、企業との交渉方法について学びました。企業の方の気持ちを確認することよりも、自分たちの要望ばかりを伝えてしてしまう傾向があったり、福祉では当たり前専門用語を用いることによって、却って話をわかりづらくしてしまうなど、企業と関わる際に気を付けるべきポイントを体験しながら学べる良い機会となりました。午後の部では、「わかりやすく教える技術」をテーマに講義を受けた後に、課題分析からシステムティックインストラクション技法を用いた実践を行いました。日ごろ何気なく当事者に関わっていたことに対して、あえて伝え方の段階を意識して分析しながら関わることは、考えている以上に難しさがあり、指示を出す際に相手に余計な情報を伝えすぎて、混乱を招いていることに気がついた方も多かったと感じます。今回の研修会を通して、十勝管内の就労支援に関心な皆さんが沢山いらっしゃることを再確認することが出来ました。今後も知識や技術を高める研鑽の機会を設けたいと思います。



講師・参加者・事務局の集合

帯広市自立支援協議会 就労・社会活動部会

企業、教育、医療、福祉、行政など各関係機関対象に
就労支援に関するテーマについて話題提供を行います



この部会は関係機関が集まり、就労支援

・生活支援・定着支援等の支援力の向上や関係機関との連携構築の場とすることを目的に、開設当初より様々な機関と連携して行っておりましたが、平成28年度から帯広市と協同で自立支援協議会の部会として開催しております。昨年度第1回目は、北海道障害者職業センター 高橋真也氏をお招きし、『障がい特性（知的障がい・発達障がい・精神障がい）と職業的課題、及び支援上の留意事項』というテーマについて講義をいただきました。各障がい特性や支援のポイントを分かりやすく伝えていただき、今後障がい者雇用を進めようと考えている企業やこれまで障がいをお持ちの方との関わりが少なかった方も含め、障がい者雇用に向けての理解を深める機会となったのではないかと思います。第2回目には、『企業文化を知り、障がい福祉サービス事業所に求められる人材育成を考える』というテーマの元、「今さら聞けないビジネスマナー」の講習や、企業で働く障がいをお持ちの方と雇用担当者にご登壇いただき「障がい者雇用についての実践発表」を行いました。就労支援に携わる関係機関の皆様へ向けて、企業文化や企業側の感じる生の声等を伝えていただき、『企業の思いを知る』貴重な機会となったのではないかと思います。今年度も障がい者雇用の理解促進や啓発に向け、地域の関係機関や企業の皆様との連携し、地域の力の底上げを目指します。今後も多くの皆様にご参加いただけますと幸いです。



企業のパネルディスカッション